



Title	タイ・チェンマイ大学での日本語教育インターンシップ
Author(s)	田中, 優
Citation	日本語講座年報. 2025, 2023-2024, p. 33-37
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/102674
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

タイ・チェンマイ大学での日本語教育インターンシップ

田中 優

1. はじめに

筆者は2023年7月から2024年2月にかけて、タイ北部チェンマイにあるチェンマイ大学人文学部日本語学科で日本語教育インターンシップに参加した。チェンマイは「タイの京都」とも呼ばれる美しい古都で、日本語学習者が多い地域である。

本インターンシップは、国際交流基金のご支援とチェンマイ大学のご協力によって実現したものであり、この場を借りてお世話になった皆様に改めて深く感謝の意を表したい。

2. 日本語学科

2024年2月末時点、チェンマイ大学で日本語を主専攻とする学生は約160名であった。1,2年生ではクラスごとに日本語の授業、3年生以降はより専門的な内容の選択授業が行われており、4年生はインターンシップまたは卒業論文を選択するという制度になっている。また、日本語を副専攻とする学生は約430名にのぼり、副専攻の学生向けの日本語初級の授業が開講されている。

3. インターン生としての活動概要

主にティーチングアシスタント（以下：TA）として

ての授業補助と教壇実習（3.1）、スピーチ大会に向けての担当学生の指導（3.2）、インターン生主導のイベントの企画運営（3.3）、「学びキャンプ」の企画運営補助を行った（3.4）。

3.1 TA

TAとして授業に参加させていただいた主な科目は表1のとおりである。また、表外の科目においても、チャンスがあれば宿題の添削や中間・期末テストの評価をさせていただいた。

なお、表1の通り、大学は前後期制で（前期は6月中旬～10月末、後期は11月中旬～3月末）、1科目週2コマ制（月曜日と木曜日、火曜日と金曜日が同じ時間割）を取っており、全学休講の水曜日を日本語学科では文化活動（4.1）に充てている。

3.1.1 2年生・会話（前期・後期）

この授業は主専攻2年生約40名を対象に行われた。TAの主な役割は、教科書の会話練習パートの対話活動に参加し、日本語母語話者として学生の質問に答えることだった。学生から日本語や日本文化に関する質問を受ける一方、私もタイの興味深い情報を教えてもらうなど、双方向の学びを経験した。

前期	月	火	水	木	金
9:30~11:00		2年生・会話	文化活動		2年生・会話
11:00~12:30		副専攻4 (Section1)			副専攻4 (Section1)
13:00~14:30		3年生・会話			3年生・会話
14:30~16:00		副専攻4 (Section2)			副専攻4 (Section1)
後期	月	火	水	木	金
9:30~11:00	副専攻4 (Section1)		文化活動	副専攻4 (Section1)	
11:00~12:30	2年生・会話			2年生・会話	
13:00~14:30	副専攻2 (Section1)				副専攻2 (Section3)
14:30~16:00	副専攻2 (Section2)				副専攻2 (Section4)

表1) TAとして参加した科目

さらに、個人発表やグループ発表の評価とフィードバックも担当した。テストの得点以外で学生を評価するのは初めての経験で、採点基準の設定や学生に役立つコメントを作成する難しさを実感した。また、授業時間の一部または全部を借りて教壇実習をする機会も得た。教案作成時には学生の日本語力や授業進度を考慮したつもりだったが、実際に約40名の足並みをそろえる授業は大変難しかった。指示が上手く伝わらず逆に学生に助けられたり、授業進度が遅れ教案の調整を余儀なくされるなど、多くの課題を残した。実習後、個人差を生かし協調的な雰囲気を生むためのピアラーニングの導入が不足していたと気付いた。

学生たちは私の拙い授業にも積極的に授業に参加してくれて、心から有難く思った。その熱意に報いるべく、より良い授業を提供できる日本語教師を目指して努力を続けたい。



写真1) 2年生・会話（前期・後期）

3.1.2 3年生・会話（前期）

この授業は主専攻3年生8名で行われた選択授業で、教科書（自主制作教材）に基づいて、学生主体の対話活動を中心に展開された。3年生は日本語で自己表現が十分可能なレベルにあり、身近なテーマを具体的なデータや事例を用いて論理的に意見を主張することが目標だった。

TAとしての主な活動内容は、モデル会話の音読、発表例の作成、対話活動への参加、課題の添削、中間・期末テストの評価とフィードバックの提供である。また、授業時間の一部または全部を借りて教壇実習も行った。

TAの経験を通して、上級レベルに適した会話授業の進行や目標設定、教師として使うべき日本語のレベルについて実感を伴って学ぶことができた。特に、少人数クラスでは教師が議論を先導せず、あくまで

司会役に徹する方が授業が円滑に進むというのは新たな発見であった。

例えば、「おすすめの作品を紹介する」というテーマでは、作品紹介例とデモテープを作成した。3年生には、初級レベルの概要説明を超えて、内容を深めた情報を提供する指導が求められた。この過程で、私も指導法をメタ的に学ぶ機会を得た。また、学期最後の教壇実習では、『ワードウルフ』という推理ゲームを行った。3年生たちは巧みな日本語で相手を惑わしたり、論理的な推理を披露してくれて、3年生の実力が分かる面白いゲームとなった。



写真2) 3年生・会話（前期）

3.1.3 副専攻（前期・後期）

副専攻向けに開講される初級日本語の授業は、表1に示したようにレベル1から4に分かれている。私はTAとして2と4の授業に参加し、学生とのペアワーク、質問対応、宿題の添削、小テストや中間・期末テストの評価を担当した。また、授業時間の一部または全部を借りて教壇実習も行った。テストの評価を通して、私が担当した課の文法を学生たちが正しく使えるようになっていていることを確認できたことは、大きな達成感となった。



写真3) 副専攻2 Section4（後期）

3.2 スピーチ大会

スピーチ大会は日本語学科主専攻2年生を対象に後期に開催され、各教師が学生のスピーチ指導を分担する。私も7名を指導した。

大変興味深かったのは、スピーチの経験有無により原稿の構成能力に差が見られた点と、内容の要領を得ない原稿には段落内の内容の統一性と段落間の結束性が欠如しているという発見だった。また、発音やイントネーションの指導では、個々の発話に注目することで全体授業では見落としがちな学生の癖を発見した。例えば、ある学生は文法能力が高く普段は誤りを指摘されにくいが、よく聞くと「日本語」という言葉のアクセントが平板ではなく中高型になる独特の癖を持っていた。

大会後学生たちは自信を得て、会話の授業(3.1.1)でも発言や発表が前期の授業より堂々としたものになっており、スピーチ大会の効果を実感した。そして、やはり指導した学生が大会で入賞したことは、自分のことのように嬉しかった。



写真4) スピーチ大会 表彰式

3.3 高校生との交流会

インターン生主導の企画で、日本語学科2年生と埼玉県の高校（恩師の勤務校）のオンライン交流会を企画・実施した。この交流会の目的は、大学生がさまざまな立場の人々と多様な話題で日本語を使い交流する機会を提供することである。

交流会は2日間に分けて行われ、1日目はアイスブレイキング、2日目は「大学進学の必要性」「進学において障害となること」「校則の必要性」「日本とタイの関係」という4つのテーマについてグループディスカッションを実施した。参加者は事前学習を行い、日本やタイの事情を整理して臨んだ。

交流会後、学生たちは「ディスカッションの時間が短く、テーマも難しかった」と大変そうに感想を

述べる一方、「もっと上手く話せるようになりたい」と学習動機を強めていた。今後このような場を設ける機会があれば、参加者の負担をより軽減する工夫を心がけたいと思う。



写真5) オンライン交流会の様子

3.4 学びキャンプ

「学びキャンプ」は、北部タイ日本語日本研究センターの支援を受け、日本語学科で毎年2回行われるイベントである。テーマに沿ったディスカッションとアクティビティを通じて、任意の参加者が多角的に学べる場を提供しており、第1回は「ジェンダーとセクシャリティの多様性」、第2回は「SNSとの付き合い方を考えよう」をテーマとした。私は担当の先生のご指導のもと、企画から運営まで携わり、事業意図の策定や予算管理、参加者の調整などを経験した。外部予算を頂いて行うような正式なプロジェクトを運営するのは初めての経験で、学びと自信を得ることができた。



写真6) 第1回「学びキャンプ」ポスター 筆者作

4. 学生との交流

インターンシップ中は授業以外でも学生たちとの交流を大切にすること心掛けた。紙幅の都合で割愛するが、授業後に学生たちと一緒に夕食を取ったり、休日にチェンマイを案内してもらった時間はかけがえのない思い出だ。以下に述べるのは、学生たちと共に参加したチェンマイ大学や日本語学科が主催で行われた企画についてである。

4.1 文化活動

授業がない水曜に行われる文化活動では、華道、書道、茶道、かるた、折り紙部があり、学外の日本の方が講師をされている。私は書道、茶道、かるたに1~2回、華道に5回参加したが、いずれも初心者だったため、初步から丁寧に教えていただき大変ありがたく思った。学生たちは熱心に取り組み、特にカルタ部は積極的に大会に参加していた。タイの競技カルタ人口は多く、全国大会には初心者から経験者まで各県の代表が集まると聞き、日本文化の浸透に驚かされた。



写真7) 文化活動 華道

4.2 クンドイ（登山）

チェンマイ大学では全学部の新入生を対象に「クンドイ」と呼ばれる通過儀礼が行われる。この伝統行事は1964年の大学設立以来続いている。学部1年生が隊列を組んでドイステープ山頂のワット・プラタート寺院まで約12kmを歩いて登るというものだ。私も日本語学科の1年生と共に、1か月前から行われる体力づくりや筋力トレーニングから参加して本番を迎えた。ワット・プラタート寺院は観光地として有名だが、学生たちと励ましあいながら自力で登頂したことは特別な思い出となった。



写真8) ドイステープ山を登る隊列

4.3 ロイクラトン祭りのパレード

ロイクラトン祭りは、タイ全土で行われる伝統的な灯籠流しの祭りである。特にチェンマイで行われるもののが有名で、祭りの夜には旧市街を山車が練り歩くパレードが開催される。在チェンマイ日本領事館も山車を出し、チェンマイ大学日本語学科からは有志が手伝いに参加した。私も学生たちと共に手伝いに加わる機会をいただき、世界的に有名なこの祭りを初めて体験した。多くの人々で賑わう沿道の中央を歩けるとは思ってもおらず、大変貴重で楽しい経験となった。



写真9) 領事館の山車とチェンマイ大学学生

4.4 日本祭

日本祭は、日本語学科の学生が主体となって開催する文化祭で、日本食の屋台、浴衣の着付け体験、神社風インスタレーションなどが企画・運営された。学生たちは外部講師の指導を受けながら、日本食のレシピを調査したり、浴衣の着付けを練習したりと、

熱心に準備を進めていた。また、ステージではバンド演奏やコスプレショーが行われ、私も学生に誘われてバンドにベースとして参加した。本番に向け、授業後に学生たちと毎晩練習を重ねたことは非常に楽しく、友情を深めることができたと思う。



写真 10) バンド演奏

5. おわりに

渡航前、私はこれから始まるインターンシップに対してポジティブな印象を抱いていたが、初めての場所で自分がどう役に立てるのか、周囲とどう関係を作れるのかという点は全く予想がつかず緊張していた。しかし、実際に滞在してみると、私は新しい場所に赴き、知らないことを知り、自分に求められていることをしながら環境に適応していく過程を心から楽しむことができる自分に気が付いた。もちろんそれは私自身の努力ではなく、いつも新しいことに挑戦するよう促してくださり、温かい雰囲気でその場に私がいることを許してくださった先生方や、私の TA としての経験を尊重しつつ友人としても付き合ってくれた学生たちのおかげである。8か月間は本当にあつという間だった。

日本語教育という側面でまとめると、大学で教える教師の奥深さと視野の広さを学んだインターンシップだった。私は渡航前に既に教育実習や日本語学校非常勤としての経験があったが、高等教育機関で中上級以上の学生に関わるのは初めだった。そのため、授業準備や指導を通じて中上級者への効果的な教授法を学ぶよう心掛け、自身の日本語教育におけるアイデアの引き出しを増やすことができた。また、先生方や学生との交流を通して、それぞれの教育観や目標に触れ、学生のニーズを的確に捉えて力を伸ばせるようサポートすることの重要性を実感した。加えて、学生の進路支援や来客対応といった学科運営に関する業務を間近で学ぶ機会があったことは、

普段自分が学生として過ごす大学ではありえない事なので、貴重な機会となった。

チェンマイでの生活という側面では、本当に楽しかったの一言に尽きる。日常生活や学生たちとの交流を通してタイ語やタイの文化について学ぶ機会も多く、徐々にタイの生活が自分に馴染む感覺は忘れない。同時に、日本語や日本文化を教える立場として、双方向の学びがある嬉しさと豊かさを感じると共に、これからも学習者の言語や文化を学び続ける姿勢を忘れないでいようと改めて襟を正した。

本インターンシップを通じて得た経験を活かし、将来は良い日本語教師になれるよう努め、願わくば海外の大学で働いたり、日本語を通じた人と人のつながりを支援する仕事をしていきたいと考える。今回の経験を支えてくださった全ての方々には、心より感謝申し上げたい。